

ふくい経済トピックス（進路編）

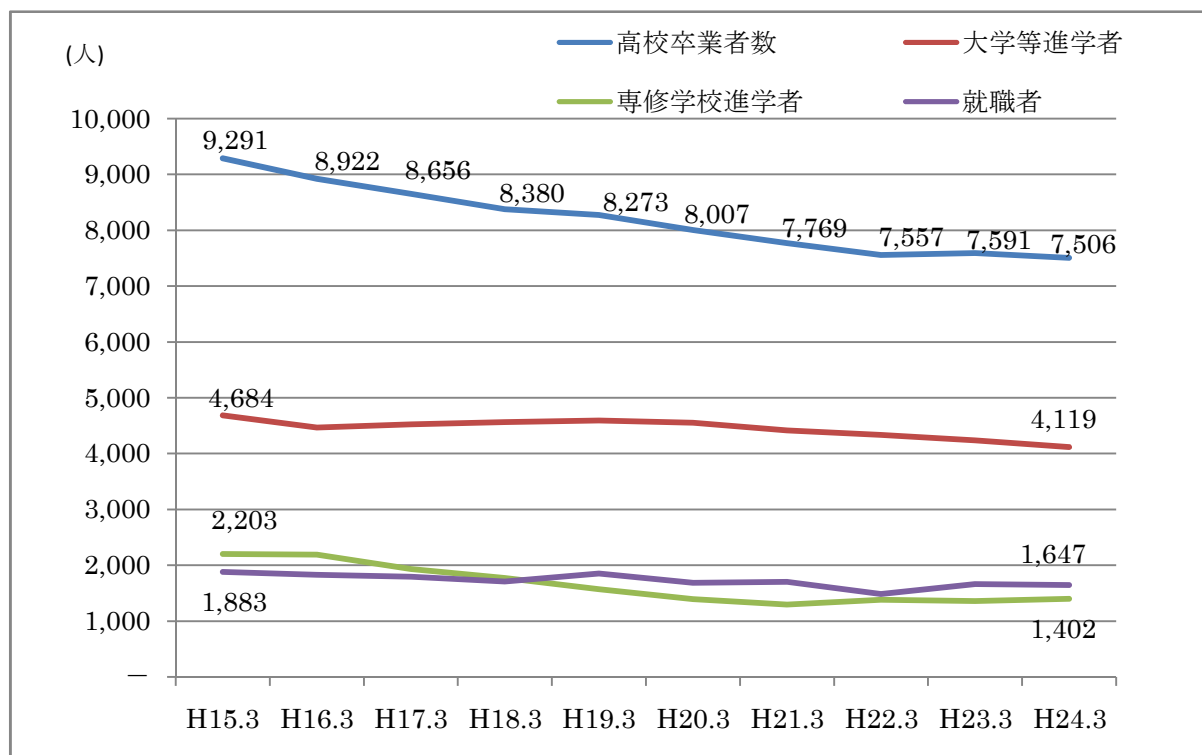
〈進学率は 12 位、就職率は 18 位〉

文部科学省が行う学校基本調査結果の速報によると、平成 24 年 3 月の福井県内高校の卒業生数は 7,506 人で、大学等進学率は 54.9%と全国 12 位、就職率は 22.0%と 18 位になっています。少子化の影響により、高校卒業生数が減少を続けていることにより、大学等への進学率、就職率とも徐々に上昇しています。

そこで、平成 15 年 3 月から 10 年間の高校卒業生、大学等進学者、専修学校進学者、就職者の変化をグラフ 1 にまとめてみました。

平成 15 年 3 月の高校卒業生は 9,291 人で、この 10 年間に 1,785 人と 19.2%も減少しています。その中で、大学等進学者は 4,684 人から 4,119 人に、専修学校進学者は 2,203 人から 1,402 人に、就職者は 1,883 人から 1,647 人とそれぞれ減少しています。グラフで見ると、大学等進学者は緩やかな減少傾向が続いており、専修学校への進学者は大幅に減少、就職者はほぼ横ばいの状況となっています。

（グラフ 1）県内高校卒業生と大学等、専修学校進学者、就職者の推移



〈18 歳人口の県外流出は半数に〉

今春の県内高校卒業生の進路を、大学、短大、専修学校、就職と 4 つに分け、それぞれの県内進学・就職者、県外進学・就職者、県外から県内への進学・就職者の数をまとめてみたのが表 1 です。

今年 4 月に、全国の大学に進学した県内高校出身者は、3,894 人で、県外への進学者は 2,821 人となりました。県外短大への進学者は 202 人で、併せて約 3,000 人が県外へ進学

しています。

一方で、県内の大学、短大への県外からの進学者は合計 973 人で、大学等の学生では 2,050 人の流出超過となっています。専修学校では 463 人の流出、就職では 204 人の流出となっています。

これらを合計すると、高校卒業時に県外に進学・就職した人数は 3,690 人に上り、高校卒業者の 49.2%にも上っています。県外からの進学・就職者は 1,005 人と高校卒業者に対する割合は 13.4%で、この差の 2,685 人が実質的な若年人口の流出数で、高校卒業者に対して 35.8%となっています。

また、大学卒業後のUターン就職の状況は正確に把握できていませんが、福井県のアンケート調査では約 26% (約 800 人) という結果が報告されており、県外からの福井県内大学等への進学者の逆Uターンによる流出と併せて考えてみても、2,700 人程度が毎年減少していることとなります。

(表 1) 今春の高校卒業者の進路 (H24.3)

		福井県内高校卒業者 7,506 人 (H24.3)				
		福井県内在住				
		県外から県内へ	県内へ	県内から県外へ		
東海	358 人	大学進学者	大学進学者	大学進学者	関西	1,102 人
北信越	262 人	949 人	1,073 人	2,821 人	北信越	580 人
関西	200 人	短大進学者	短大進学者	短大進学者	関東	502 人
関東	43 人	24 人	425 人	202 人	東海	479 人
その他	86 人		専修学校入学者	専修学校入学者	その他	158 人
その他は留学生含む			939 人	463 人		
		就職者	就職者	就職者		
		32 人	1,443 人	204 人		
		流入合計	進学・就職合計	流出合計		
		1,005 人	3,880 人	3,690 人		
		高校卒業者対比	卒業者に占める	卒業者に占める		
		13.4%	割合 51.7%	割合 49.2%		

※大学進学者には、昨年以前の高校卒業者で大学等に進学した者を含むので、必ずしも合計は一致しない

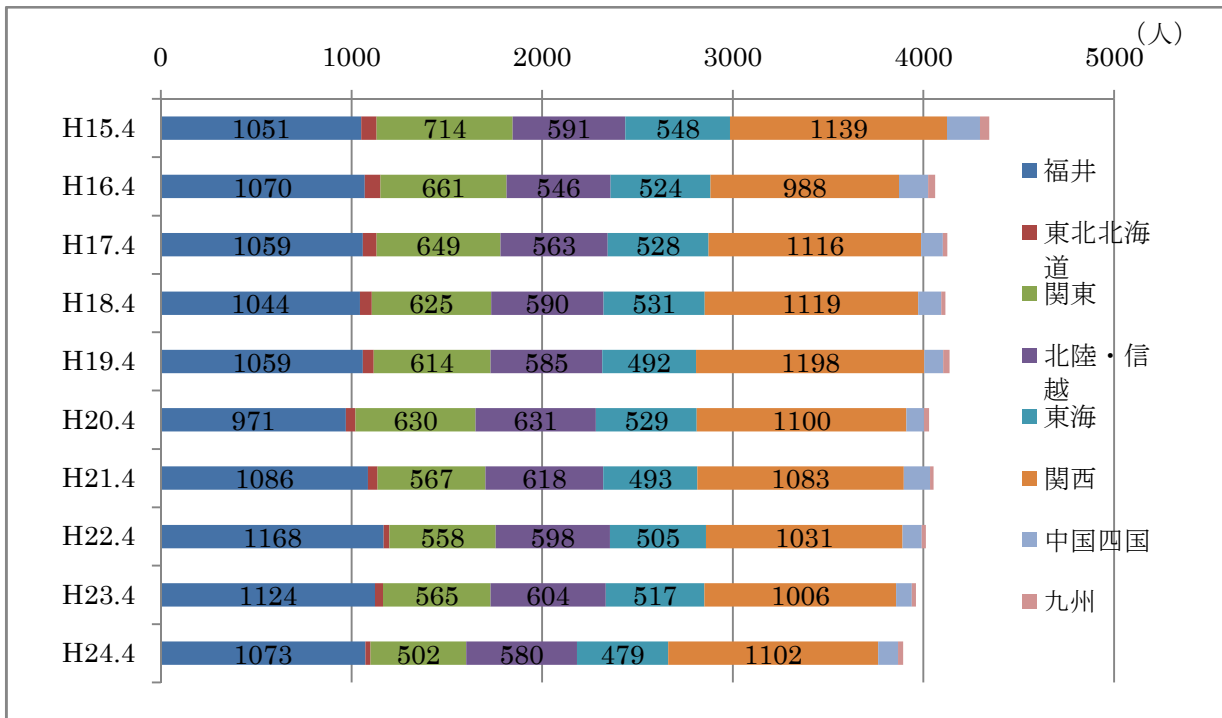
※高校卒業時の実質若年人口減少率(流出合計-流入合計)/高校卒業者数=35.8%

ちなみに、進学・就職以外の「その他」の中には、大学受験のための浪人中の方も含まれていますが、この人数は 10 年前に比べ 200 人程度減少していることから、以前に比べ大学には入りやすくなったといえます。

〈県外進学 of 4 割は関西〉

県内高校出身者の大学入学者数を地域別に分け、その推移を表したのがグラフ 2 です。

（グラフ 2）県内高校出身者の大学入学数の地域別推移



県内大学への進学者数は、1,000 人前後で推移しています。リーマンショック後の景気低迷の影響を受け若干増加に転じましたが、ここ数年は減少傾向を示しています。

一方、県外大学への進学者では、関西地域が最も多く、1,000 人を超え、次いで北陸・信越地域が 600 人、関東、東海がそれぞれ 500 人程度になっています。高校卒業生が減少する中で、進学先として県内、関西、北陸はほぼ横ばいの中で、関東については減少傾向が顕著になっています。

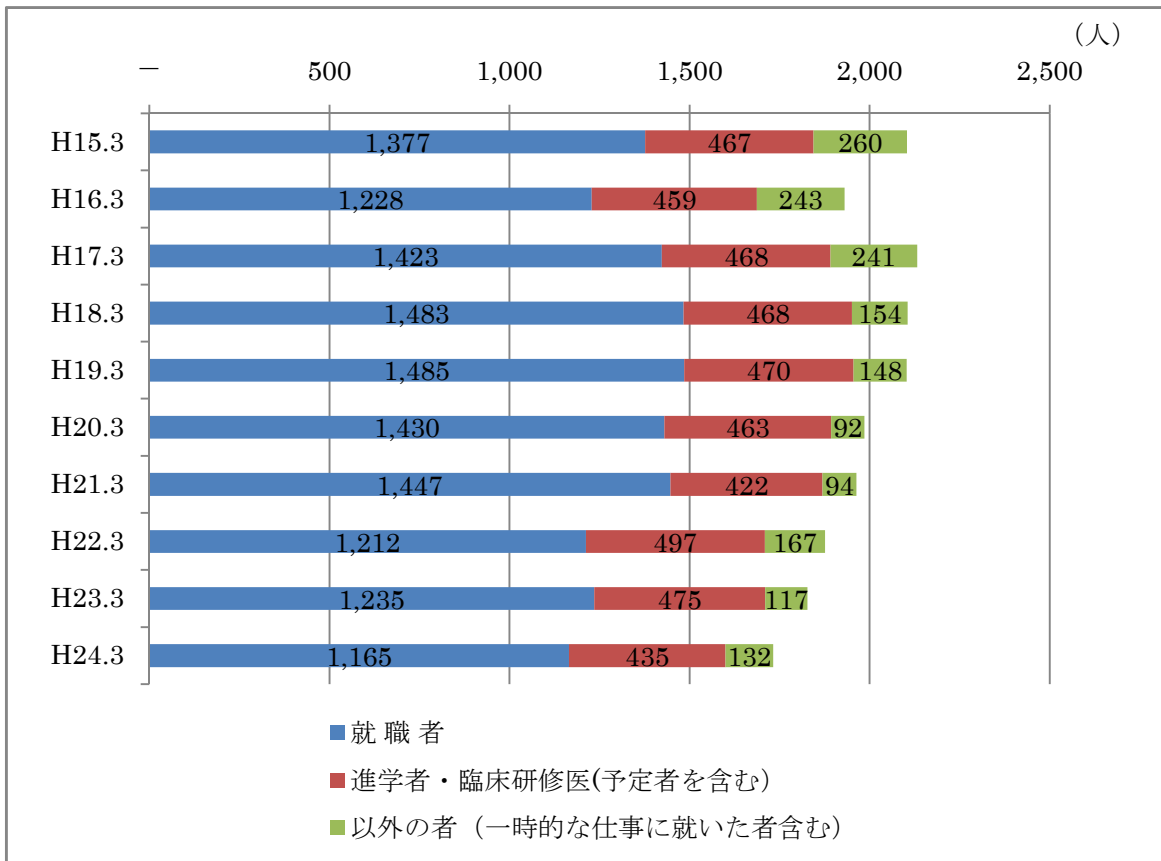
〈大学卒業後の進路は〉

この調査結果では、都道府県別に大学卒業後の進路についても紹介されています。

今年 3 月に福井県内の大学を卒業した人は、1,732 人と、この 10 年間で最も少なくなっています。4 年前の入学者数は、1,882 人と最も少なかったためその影響もありますが、毎年入学者数と卒業生数を比較すると約 150 人の差が出ています。これは、中途退学や休学、留年といった理由が考えられますが、最近では就職が決まらないのであえて卒業しないケースも増えているようです。

大学卒業生の内、25%が大学院への進学や研修医などに進み、実際に就職した人は、1,165 人とどまっています。なお、これには県外への就職 U ターン者も含まれています。

(グラフ3) 県内大学卒業者の進路



先日、「福井県の人口が80万人を割り込んだ」というニュースが流れました。福井県にとっての大きな課題は、人口減少の大きな要因でもある高校卒業時の若年人口の流出で、結果的に少子化を加速させることにもつながっています。

企業にとっても、将来を担う若手の人材確保は大きな課題であり、Uターンを含めた積極的な活動が必要になっています。

〈福井商工会議所所報 10月号掲載〉